河川空間を利用した地域活性化の取り組み
～ミズベリング遠江（とおとうみ）の活動～

小澤 英敏[1]・岩田 幸雄[1]

[1]浜松河川国道事務所　工務第一課（〒430-0811　浜松市中区名塚町266）

天竜川や浜名湖を中心とする静岡県西部（遠江）で始動した「ミズベリング遠江」。その活動は、地域のあらゆる立場や分野の人々をつなげ、地域の活性化へとつながる。独自の戦略をたて、地域の活性化のカギとなり得るその内容ついて紹介する。

キーワード：ミズベリング、地方創生、ビジネス、戦略

１．はじめに

(1) 概要

浜松河川国道事務所は、静岡県西部の天竜川（河口から長野県境まで）および菊川とその支川を所管しており、その流域面積はそれぞれ天竜川［5,090km^2］、菊川［158km^2］を有している。当事務所管内の主な流域都市として、天竜川には浜松市、磐田市があり、菊川には菊川市、掛川市、島田市および御前崎市がある。天竜川、菊川における河川空間は、広い河川敷と整備された河川公園を利用した、スポーツや散策などが盛んで、花火大会等のイベントにも活用されている。近年、各地で進む河川空間の利活用促進の流れもあり、天竜川、菊川においても、流域住民の中から「河川空間を活用して、地域活性化につなげたい」という想いが多数寄せられるようになり、河川空間の活用を検討・実施する一環として、流域におけるミズベリングの取り組みが始動した。

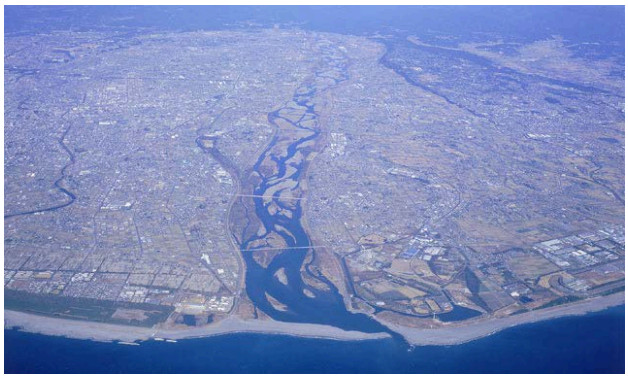

図-1　天竜川河口（航空写真）

(2) ミズベリングハママツ

ミズベリング遠江は、ミズベリングハママツを前身とする。その第1回ワークショップが平成28年10月21日に開催された。ワークショップの開催にあたっては、河川のオープン化を見据え、河川空間の利用者に留まらず、まちづくりという視点で、個人、団体、地元企業等幅広く参加の呼びかけを行った。「ミズベリングって何だろう」、「水辺で何をするの」、「水辺で何ができるのか」。ワークショップには、様々な想いを胸にした20～80代までの総勢70名にも及ぶ流域住民、流域活動団体、地元企業らが集まった。参加者の居住エリアは天竜川流域にとどまらず、菊川流域や浜名湖周辺の住民らも参加し、様々な意見が交わされた。河川空間を活用するアイディアとして「熟年夫婦が手を繋いで憩う、そんな映画を河原で上映したい！」、「浜名湖・天竜川をサイクリング・舟運でつなぎたい！」、「水辺でおしゃれなグンラピングをしたい！」等々の熱い想いに参加者している人たちが共感・賛同し、熱い渦となってワークショップは盛況のうちに閉会した。

図-2　ワークショップの状況

(3) パブリック・アレンジメントへのチャレンジ

このワークショップでは、河川空間の利用に対する意見交換を基にビジネスを生み出し、地域の活性化へとつながる戦略を打ち出した。

社会の情勢が所得再分配（造る）の時代から付加価値創出（生み出す）の時代へ移行している。このような中では、河川や公園などの公共資産に対しても、単に管理するアセット・マネジメント（資産管理）から、新たな資金の調達を含めて公的資産を運用し、付加価値を高めるパブリック・アレンジメント（資金調達&資産運用）が求められている。

「ミズベリングハママツ」では、その実践に向けた取り組みにチャレンジすることを目指した。既に天竜川の親水施設「河輪地区水辺の楽校」において、天竜川初の市民団体・自治会の連携、クラウドファンディングの実施などの成功事例を参考として、同様の活動の展開にチャレンジしている。

図-3 パブリック・アレンジメントの一例（クラウドファンディングによる「手作り灯篭伝馬船プロジェクト」）

(4) ミズベリングハママツからミズベリング遠江へ

ワークショップを経て、参加した流域住民たちは、それぞれの活動の場で、ミズベリング活動の展開をスタートさせた。早々に「ミズベリングハママツ」という名称が広域的な活動にそぐわないという意見があり、「ミズベリング遠江」として、静岡県西部地域全体で活動を推進する運びとなった。「遠江（とおとうみ）」とは、琵琶湖が京に近い近淡海（ちかつあわうみ）であるのに対して、浜名湖が遠淡海（とほつあわうみ）であることに由来し、静岡県の西部地域を示す。戦国時代は、今川義元が領したことでも知られており、現在、NHKの大河ドラマ「井伊直虎」の舞台となっていることから全国的な認識も高まっている。

この地域は、温暖な気候に恵まれ、農産物としてメロン、緑茶、蜜柑、綿花の生産に優れ、古くは遠州織物などが隆盛を極め、また、ホンダやヤマハ、スズキといった国内有数の製造業の発祥地であり、流域の基幹産業となっている。

この「遠江」には、浜名湖、佐鳴湖、馬込川、天竜川、今之浦川、太田川、菊川と様々な水辺があり、静岡県西部を枠組みとする「ミズベリング遠江」、そして天竜川や浜名湖で「ミズベリング天竜川」や「ミズベリング浜名湖」など「遠江」の中で連携する活動団体も発足し、全体で一丸となって、河川空間を利用した活動をビジネスへと展開し、ひいては地域活性化へとつなげる取り組みを開始した。

図-4 ミズベリング遠江のロゴおよび連携するミズベリング天竜川、ミズベリング浜名湖のロゴ

2. ミズベリング遠江の取り組み

(1) ミズベリング遠江会議

ミズベリング遠江では、平成28年度に「ミズベリング遠江会議」を４回開催した。この会議では、10月21日に生まれた新しい河川空間の活用アイディアの種を、ミズベ共感ビジネスの実践者がプロジェクトを発表し、共感者づくりを行う活動を行っている。

図-5 「ミズベ共感ビジネスにつながるウーマン力」と題したトークライブ

図-6 ミズベリング遠江クリスマス会議の様子

またこの会議は、水辺ビジネスのプラットフォームとして、ビジネスプロジェクトの発表だけではなく、全国で活躍するミズベリング関係者を招待し、トークライブ等を開催し、参加者がプロジェクトの実践に向けたノウハウを学び、各参加者がもつ資源「ヒト・モノ・カネ」が連携できるよう仕掛けを行っている。

流域を超えてのヒトやモノのつながりは、ミズベリング遠江の実践者たちに勇気と刺激を与え、活動の活性化を促すなどの波及効果をもたらしている。

(2) ミズベリング遠江に参画する地元企業等

ミズベリング遠江会議は、地域の企業や商工会等の協力・後援を受けて開催している。地元企業がミズベリング遠江へ参画をしやすいように参画条件を設定せず、広く門戸を開くよう配慮している。その結果、多くの地元企業が参画することになった。

企業の中には、浜松駅等の主要駅でミズベリング遠江会議の開催告知ポスターの掲示や街頭ビジョンでの告知、新聞やラジオ、テレビ等での活動紹介など、ミズベリング遠江の周知に大きく貢献してもらっている。

図-7 地元企業の協力によるミズベリング遠江会議のPR（浜松市中心部の街頭ビジョンによる開催告知）

(3) ミズベリング遠江から生まれた交流

ミズベリング遠江では、協力・後援を頂く企業や団体に会議への参加をお願いしており、参加企業と河川空間を活用する団体や流域住民とのマッチングの場ともなっている。また、参加者同士の交流、連携も盛んに行われており、同じ流域で活動していながら、これまで交わる事のなかった個人や団体、企業等が会議を通じて知り合い、Facebook等を活用して情報共有するなど、ミズベリング遠江が起点となって、エリアを超えた活動や連携の輪が広がる好循環が生まれている。

(4) 出張ミズベリングin菊川

ミズベリング遠江では、「出張ミズベリング」を実施している。その第1弾として、菊川流域（菊川市）でワークショップを開催した。菊川での出張ミズベリングには、子育て中のママや小さな子どもたちも参加し、菊川の河川空間を活用した魅力的なアイディアが集まり、ミズベリング菊川が始動することとなった。

ミズベリング遠江の事務局には、ミズベリングに関心を寄せる自治体等から、「出張ミズベリング」のオファーが多数寄せられている。

図-8 出張ミズベリングin菊川では魅力的なアイディアが多数寄せられた

(5) 試行活動の実施

ミズベリング遠江では、ワークショップや会議の中で生まれた河川空間の利用アイディアを基に、ミズベ共感ビジネスの実践に向けた試行活動を行っている。その第一弾として、天竜川河川敷において、近年、注目を集めるグランピング（贅沢で快適なキャンプを指す造語）をイメージしたイベントを試行し、柿とミカンのオーナー制度を展開する地元企業やＮＰＯ法人水辺の里まちづくりの会等の老若男女が集い開催した。

この試行活動により、河川空間の使い勝手や実践する際の留意点などを検証し、その結果を会議で報告した。

図-9 試行活動では、具体的な実施内容を検証。実施に向けた問題点等を確認した

３．ミズベリング遠江の5K戦略

ミズベリング遠江は、行政・民間・地域運営組織（RMO）、PPPエージェントなどのプレイヤーが、当初より環境・観光・稼ぐ・広報・協働の5つの「5K戦略」を掲げ活動を推進している。

これはミズベリング遠江の活動が、地方創生モデルを形

成する「ミズベ共感ビジネスを生むプラットフォーム」となるための取り組みであり、5K戦略を展開することで、先に述べた河川空間のパブリック・アレンジメントへとつなげ、最終的に地域の様々な企業や団体等と連携した、地域活性化につながると確信している。

事実、ミズベリング遠江会議では、河川空間を利用した資金調達の手段となるクラウドファンディングの勉強会が地元金融機関の主催で開催されるなど、具体的な動きが出てきた。

４．ミズベリング遠江の効果・期待

平成28年度のミズベリング遠江は、「ミズベ共感ビジネスを生むプラットフォーム」として、会議形式により遠江で活動する人達の出逢い場づくりを中心に活動した。

その結果、ミズベリング遠江に共感した人達の中から「ミズベ共感ビジネスを実現にむけて活動するユニットリーダー（通称：ミズベ戦隊）」が生まれた。このミズベ戦隊は、20代から60代の幅広い世代の起業家等が遠州織物のユニフォームに身を包み、嬉々として作戦行動を展開している。

図-10 ミズベリング遠江の中心的な存在「ミズベリング戦隊遠江」は回を追うごとにメンバーが増えている

また、ミズベリング遠江では次世代を担う高校生の参加を学校に依頼している。授業で得たスキルを活用して、水辺の利活用を促すマップ製作など、次世代のユニットリーダー候補生の活躍の場ともなっている。

図-11 静岡県立島田商業高校の生徒たちの活動報告。ITを活用したミズベリングマップを紹介した

このようにミズベリング遠江は、世代を超えた活動になっており、その効果は今後に期待するところである。

５．今後の展開

ミズベリング遠江では、更なる活動の展開を図るため平成29年度　港イベント「浜名湖MINATORING2017」への参画、遠江居住の外国人が参加する「ミズベリング遠江　グローバル」そして、天竜川での河川のオープン化を目指した河川空間利用促進協議会の立ち上げ等を企画・検討している。

このようにミズベリング遠江では、今後、河川空間を活用して地域を活性化する具体的な活動が始まる。

６．おわりに

ミズベリング遠江は、平成28年10月にスタートし、まだ取り組みを始めたばかりである。

しかし、今年度のミズベリング遠江会議は、これまで連携することがなかった地域の活動団体をつなぎ、地元の企業や金融機関、自治体担当者等とのマッチングの場となった。また「ミズベリング」をキーワードに地域や流域を超えた広域連携も始まり、プラットホームとして大きな役割を果たした。

地域の活性化は、様々な場所で様々な立場の人たちが連携し、想いを実現へと運ぶ小さな渦が周りを巻き込み大きな渦となり、その渦が活性化を促すものと考える。今、ミズベリング遠江で回り始めた小さな渦をここで止めてはならない。そのためには、ミズベ共感ビジネスの各プロジェクトが実現するように、継続的に活動できる仕組みづくりが必要である。

浜松河川国道事務所としても、ミズベリング遠江の活動プラットフォームを支え、地域の方々や地元企業と共に活動の課題解決に向けた支援を続けていきたいと考えている。

謝辞：ミズベリング遠江の活動を精力的に実践するユニットリーダーおよび、活動趣旨に賛同し協力・後援していただいている遠州鉄道株式会社をはじめとする24もの地元企業、各自治体、団体等の皆様に対し、この場をお借りしてお礼申し上げます。

なお、今回取りまとめた河川空間を利用した地域活性化への取り組みについては、浜松河川国道事務所ホームページのミズベリング遠江のページにて、活動状況等を随時確認できる。

.【ミズベリング遠江 ホームページ】
http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/mizbering/
【ミズベリング遠江 Facebook】
https://www.facebook.com/mizberinghamamatsu/